



Japan Society of Civil Engineers

International Activities Center

国際センター通信 (No.18)

第1回 国際シンポジウム講演会2014開催報告

教育グループでは、わが国の建設・インフラ関連産業が海外市場において活躍の場を広げ、世界市場で大きな存在意義を発揮していけるよう、人材のグローバル化に対する支援活動の一環として、国際シンポジウム講演会を開催しました。日本で活躍されている海外の企業の方、海外で活躍されている日本の企業の方にそれぞれの企業の活動、あるいは建設産業の海外進出についての考え方をご講演頂きました。当日は建設産業に携わる産官学より計78名の参加がありました。



土木学会 国際センター
教育グループリーダー
納多 勝



講演会の様子 (宮崎氏)

講演会の第1部では日本で活躍されている海外の企業からの講演として、オーバースィーズ・ベクテル・インコーポレーテッド社日本支社長の宮崎氏にご講演頂きました。海外展開が進んでいるといわれる欧米企業の事例と日本企業の現状を比較した上での今後の海外進出手法、また日本の技術者に求められる能力についてのお話があり、その後の質疑を含め活発な意見交換がなされました。

また第2部では海外で活躍されている日本の企業からの講演として、日揮株式会社エンジニアリング本部本部長代理の松岡様にご講演頂きました。時代の流れと会社の歴史をリンクさせ、時代の流れに沿ってどのように海外展開を図っていったか、またその時々はどういった志し・課題を持って進んできたかといったお話があり、具体例を交えた講演内容に海外進出を目指す企業に属する聴講者の皆様は熱心に聞き入っていました。



講演会の様子 (松岡氏)

本講演会は3回シリーズとして企画されており、今回はその第1段でした。第2回は3月17日(月)、AMEC社より Nawal K. Prinja 氏、AECOM社より 榮枝 秀樹 氏を招いて開催いたしました。(国際センター通信第19号にて報告予定) 第3回は4月22日(火)を予定しています。教育グループではこのような取り組みが、日本の企業で海外に進出を考えている方々の一助になるのではと考えております。

フィリピン分会報告 “The Forum on Structural Resilience to Earthquakes and Typhoons through Sustainable Civil Engineering”の開催

土木学会フィリピン分会はフィリピン大学工学部およびフィリピン土木学会とともに、2014年1月30日に“The Forum on Structural Resilience to Earthquakes and Typhoons through Sustainable Civil Engineering”を開催いたしました。本フォーラムは昨年フィリピンで相次いだ地震と台風による甚大な被害を受けて、土木学会とフィリピン土木学会、フィリピン大学工学部等が実施した共同調査の結果を報告することで、災害の実態の情報を共有し、今後の対策についての国際的な協力の強化を目的として開催されました。



フィリピン大学工学部長による開会の挨拶

フォーラムはフィリピン大学工学部長と土木工学科長の挨拶によって始まり、フィリピン土木学会と土木学会会長からのメッセージが披露されました。橋本会長からは今回の台風災害による多くの犠牲者に対して哀悼の意を表するとともに、今後の災害マネジメントに対しての国際的な協力関係のさらなる強化を図っていくとのメッセージが伝えられました。

フォーラムは2部構成で、前半は地震セッションで後半が台風セッションでした。土木学会からは2つの興味深い発表がなされました。一つは、現在国土交通省より JICA 専門家としてフィリピンの公共事業道路省に派遣されている佃誠太郎氏より、地震セッションにおいて "Reconnaissance of Highway Bridge Damages due to the 2013 Bohol Earthquake in the Philippines" と題した報告です。佃氏は、ボホール地震における橋梁の損害を、国交省の技術者を中心とした JICA 調査団の一員として詳しく調査され、その調査結果を提示するとともに、現在の問題点と今後の橋梁の耐震設計の在り方についての提言をされました。地震セッションではこのほかにフィリピン火山・地震研究所、フィリピン大学土木工学科およびフィリピン土木学会・フィリピン構造工学技術者協会からも報告がありました。それらの報告では、今回のボホール地震による建物や地盤等の損害調査を通じて、今後の地震に対する備えとして何が必要なのか報告されました。



佃誠太郎氏のプレゼンテーションの様子

続いて行われた台風セッションでは、11月の Haiyan/Yolanda による高潮被害についての報告がなされました。土木学会からは、土木学会とフィリピン土木学会の合同調査チームの一員であった京都大学の安田助教より "Report of JSCE-PICE Joint Survey on the Storm Surge Disaster caused by Typhoon Haiyan/Yolanda" と題して報告をいただきました。そこでは、今回の高潮による被害の実態が示され、大きな被害をもたらされた原因についての検討結果が報告されました。台風セッションではこのほかにもフィリピン科学技術省・全国災害危険評価部門、フィリピン気象庁、フィリピン土木学会とフィリピン大学土木工学科からも報告がなされました。それらの報告では、台風とその被害についての調査結果に基づいて、特にレイテ島で被害が拡大した原因についての分析結果について報告がなされました。

本フォーラムには100人以上の土木技術者の参加があり、またその20名以上が在フィリピンの日本企業の土木技術者でした。参加者は今回の被害の実態とこれからの対策についての提言について熱心な討議を行い、有益な情報共有が図られました。朝からの長時間にわたったフォーラムは、土木学会フィリピン分会のシグア分会長の挨拶で閉会となりました。

【記：国際センター交流 Gr.フィリピングループ・フィリピン分会】

ベトナム分会だより

ベトナム分会は、2009年に設立された新しい分会であり、私は設立当初からメンバーとなりお手伝いをさせて頂いています。土木学会が発信している情報は専門性に優れ非常に価値があるものの、英語で発信されている情報は限定的であり、学会が保有しているノウハウを海外の現場では生かし切れていないのが現状と感じていました。このような状況に対し、土木学会本部では海外活動の促進を目的に国際センターが設立され、ベトナムは重点国の1つと位置づけられ、Dr. Quoc氏（清水建設）を中心とするベトナムグループが発足され国際シンポジウムなど様々な活動が行われるようになりました。Dr. Quoc氏、Dr. Giang先生（NUCE（建設大学））の尽力もあり、2013年11月にはNUCE内に日越土木技術者交流促進センター（CJV）が設立され、土木学会図書コーナーを配置することができました。CJVには会議スペースも設けられ、日本技術の紹介や研究会など交流活動の場としての機能も有します。

図書コーナーには土木学会本部から寄贈された47の専門書が配置され、誰でも閲覧できる環境を整えることができました。ベトナムでは土木分野の専門書がまだまだ少なく、土木学会が有している専門書の活用価値は高いと感じており、今後この図書資料の充実に努めていきたいところです。

ベトナムは日本への留学経験者も多く、また現地で活躍中の日本人土木技術者も多くいます。現地業務をスムーズに実施させるためには、技術的なレベルでベトナムと日本双方の考え方を理解し、コミュニケーションを取りながら合意をはかって行くことが重要であると感じています。ベトナムにお越しの際は、是非とも分会にご一報ください。分会を通じて皆様方の研究活動・ビジネスで役立てられる人的ネットワークが築ければ幸いです。

【記：ベトナム分会幹事長 関 陽水 (ALMEC Corporation) e-mail: seki@almec.co.jp】



Library Corner in Center for Promoting Japan - Vietnam Civil Engineers Collaboration (CJV)

<センターの所在地・連絡先>

- Address of International Center of JSCE in Hanoi, Vietnam: Room 110, A1 Building No.55, Giai Phong Street, Hanoi, Vietnam
- Ms. Nguyen Thi Huong, Email: Huong Nguyễn Thị <huongnt1@nuce.edu.vn>
- Tel: +84.4.3.8691302; +84.4.3.8699403, Fax: +84.4.3.8691684

国際センターの活動（土木学会会長 橋本 鋼太郎）

◆日本とトルコの技術交流について

今年2月、濱田政則早稲田大学教授（第94代土木学会会長）の退職を記念して地震防災工学に関する講演会が開催されました。

トルコのイスタンブール工科大学ゼキ・ハシュケル名誉教授が「地震防災分野の日・トルコ協力の歴史」と題して講演を行いました。ハシュケル名誉教授は土木学会トルコ分会長でもあります。

トルコと日本の歴史に関しては、オスマン帝国時代の1839年アブデュルメジト1世によって宣言された政治改革と、日本の明治維新（1868年）がほぼ同時代の欧米化の動きであったという共通点があります。

また、1889年小松宮殿下が日本の軍艦に乗船して首都イスタンブールを訪問したこと、オスマン提督の乗船するフリゲートエルトゥールル号が日本訪問帰路の折に悲劇的な事故に見舞われ、この時日本人が救助活動を行ったことがその後の両国の友好のきっかけになりました。

トルコの地震研究については、1951年にイスタンブール工科大学の地震研究所に日本の研究者が招かれました。その後も人的交流が続き、萩原尊礼教授、力武常次教授がイスタンブール工科大学の客員教授として招かれています。久保慶三郎教授（土木学会第74代会長）もその一人です。

トルコと日本の技術協力では、1988年に完成した第二ボスポラス大橋（ファーティフ・スルタン・メフメト橋）、昨年開通したボスポラス海峡横断地下鉄、建設中のイズミット湾横断橋等があります。

トルコは日本と同様地震国であり、地震防災を進めるとともに社会インフラの整備を必要としています。今後とも土木分野の交流、技術協力を強化していきたいと思えます。

しかしながら、土木学会のトルコ分会は、前述のハシュケル名誉教授一人に負っています。国際センター交流グループのトルコ担当も決まっていますが、日本およびトルコにおいて、より活発な土木学会としての活動が望まれます。さらに、濱田土木学会元会長とハシュケル名誉教授の長年にわたる親交、トルコ出身の琉球大学藍檀オメル教授の活躍等をベースに今後の発展を期待します。

4月3日に世界で活躍する日本の土木技術者シリーズの第1回シンポジウムとして「アジアとヨーロッパを結ぶボスポラス海峡横断鉄道工事」報告会が開催されますが、時宜を得た企画であります。他の国別グループも続いて欲しいと思えます。



ハシュケル名誉教授（左から2番目）

イベント情報

- 2014/4/3・・・世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ 第1回シンポジウム「アジアとヨーロッパを結ぶボスポラス海峡横断鉄道工事」 主催：土木学会 会場：土木学会講堂（東京）
(http://committees.jsce.or.jp/kokusai/project_1)
- 2014/4/22・・・第3回国際センターシンポジウム講演会「日本の建設企業の海外進出を考える」
テーマ：「事業の多様化に向けて～海外企業の事業展開の現状～」
主催：土木学会 会場：土木学会講堂（東京）
(<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/62>)
- 2014/5/29 - 30・・・第59回 ECCE 総会・ECCE 会議（グルジア・トビリシ）
(<http://www.ecceengineers.eu/>)
- 2014/5/31・・・留学生向け企業説明会 主催：土木学会 会場：土木学会講堂（東京）
(<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/52>)

お知らせ

- ◆ 土木学会誌の特集記事の概要を JSCE の website (英語版) にアップしました。
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆ 土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No. 36 が発行されました。
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newsletter.htm>

御協力のお願い

国際センターでは、国際活動に関する“情報発信の強化”を目標に掲げ「国際センター通信」を配信しておりますが、更に配信先を拡大し、皆さまと情報を共有していきたいと考えています。

つきましては、皆さまより周囲の方々へ国際センター通信をご紹介いただき、国際センター通信の定期的配信を希望される方には、次の登録フォームよりご登録いただくよう御案内いただけませんか。何卒、御協力のほどよろしくお願いいたします。

「国際センター通信配信希望者 登録フォーム」

- ・日本語版 : (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・英語版 : (http://www.jsce-int.org/pub/registration/non-international_students)
- ・英語版 (日本の大学等への留学経験をお持ちの方) : (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/30>)

◆掲載記事募集します◆

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。国内外の産学官界に所属する技術者、研究者、行政官および学生等に配信すべきと考える記事を投稿してください。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。

国際センター通信をより充実した、読み応えあるものにして行きたいと考えておりますので、ぜひ、ご協力くださいますようお願いいたします。

記事投稿の詳細はコチラ>>> (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>)

Yの独り言

3月3日に、土木学会主催の東日本大震災シンポジウムが開催されました。それを聞いて岩手県のことを思い出しました。県は9カ年の災害復旧・復興計画を掲げ、災害で壊された町を立て直すために最善を尽くすという強い意志をお話されておりました。この3年間で、人々の関心は薄れてきており、ボランティア活動もどんどん減っています。それは、東北の復旧が順調に進んでいると信じたいためか、あるいは、あまり進んでいない様子を見たくないためか、あるいは4月から消費税が上がることで影響を最小限にしようと他の事には気が回らないせいかもしれません。岩手県はどの程度復旧・復興作業がすすんでいるのでしょうか？

【ご意見・ご質問】: JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。

